

牛肉情勢

2月6日 更新 JA全農ミートフーズ株式会社

項目		内容		備考									
供給	1.国産	○ 令和2年12月の成牛と畜頭数は、97.2千頭(前年比102.7%)となった。 内訳を見ると、和牛47.2千頭(前年比105.1%)、交雑牛21.3千頭(同 101.1%)、乳牛去勢13.3千頭(同 97.6%)であった。 ○ 令和3年1月の成牛と畜頭数は、速報値(1/29まで集計)で80.0千頭(前年比98.1%)と前年を下回った。 ○ (独)農畜産業振興機構が1月27日に公表した牛肉の需給予測によると、2月の生産量は和牛が前年同月並みとなるものの、交雑種および乳用種で出荷頭数の減少が見込まれることから、前年同月をわずかに下回ると予測している。 3ヶ月平均(12～2月)について、出荷頭数・生産量ともに前年同期をわずかに下回ると予測している。		○国内生産量の推移(単位:千頭)									
	2.輸入	○ 令和2年12月の輸入通関実績によると牛肉輸入量は全体で49.2千ト(前年比92.7%、前月比99.7%)となった。 内訳は、チルドが23.6千ト(前年比109.8%、前月比109.4%)、フローズンが25.6千ト(同 81.1%、同 92.1%)となった。 チルド輸入量は前年度の日米貿易協定の発効による関税引き下げを見越した通関繰越などの反動により前年を上回り、フローズンは現地コスト事情も反映して米国・豪州などが前年割れとなり、全体として前年を下回る結果となった。 主な国別で見ると、チルドは米国11.7千ト(前年比 132.4%)、豪州10.0千ト(同 98.0%)、カナダ0.7千ト(同 61.6%)、フローズンは豪州12.2千ト(前年比 96.4%)、米国8.5千ト(同 56.4%)、カナダ2.9千ト(同 150.0%)、ニュージーランド0.9千ト(同163.4%)、メキシコ0.4千ト(同 88.3%)であった。 ○ (独)農畜産業振興機構が1月27日に公表した牛肉の需給予測によると、チルド輸入量は北米からの入船遅れの影響や前年度の輸入量が多かったことから、1月、2月ともに前年同月をやや下回ると予測している。 フローズン輸入量について、1月はチルドと同様に北米からの入船遅れや前年度の輸入量が多かった影響により、前年同月をかなりの程度下回ると予測している。 一方、2月は前年同月をわずかに上回ると予測している。		○輸入量の推移(単位:千ト、%)									
				*財務省:通関実績									
				○総務省:家計消費量(7,円、%)									
需要	1.家計消費	○ 総務省発表の令和2年11月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり牛肉購入量は563g(前年比100.4%)、支出金額が1,836円(同111.3%)となった。		○輸出量の推移(単位:ト、%)									
	2.小売動向	○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の12月の販売統計速報によると、既存店ベースでの畜産部門の売上高は1,352億円(前年同月比107.4%)となった。年末・正月商戦ではステーキやすき焼き用和牛などの高単価商品を中心に好調だったとしている。一方で、帰省客減少により売れ筋に大きな影響を受けた店舗がみられたとの報告がなされた。外食自粛による家庭内消費需要が堅調に続いており、全体的には好調に推移したとしている。 前年の暖冬からの反動や青果の相場安を追い風に鍋用食材の引き合いが強く、豚肉や鶏肉が好調となった。牛肉は国産、輸入問わず好調となり、加工肉は家庭向けが好調だったとしているが、ギフトについては好不調が分かれているとの報告がなされた。		○市況の推移: 東京市場(税込み、単位:円/kg、%)									
	12月概況	○ 日本チェーンストア協会が公表した12月販売概況によると、畜産品の売上は1,070億円(店舗調整後で前年同月比108.6%)となり、2月以降11か月連続で前年実績を上回り、前月比でも121.2%と大幅に上回る結果となった。		農水省食肉流通統計 (速報値は農畜産業振興機構が公表する東京市場の平均枝肉価格)									
	3.外食	○ 日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査12月度結果報告によると、12月は新型コロナ新規感染者数が更に増加し、営業時間短縮要請や外出自粛要請などにより、客足が急減し店内飲食業態は大きな打撃を受け、年末需要が消失したこと等により外食全体の売上は前年同月比84.5%となった。業態別では、①ファーストフードは洋風など巣ごもり需要で堅調な業態もあったものの、コロナ第3波の影響で客足が減少し、全体売上は97.0%となった。②ファミリーレストランは前月末からの客足減少傾向が続き、加えて酒類を提供する飲食店等に対する時短要請が全国に広がり、全体売上は78.2%となり、焼肉は88.6%となった。 ③居酒屋は夜の営業が大半を占めることから大きな打撃を受け、前年比39.8%となり、④ディナーレストランもこれまで時短要請と解除が繰り返されるなか、法人や大人数の宴会が全く期待できず、売上は58.1%と急激に減少したとしている。											
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構公表の令和2年11月末の推定期末在庫量は、127.6千ト(前年比103.0%、前月比95.9%)となった。 内訳は、輸入品在庫が116.3千ト(前年比102.5%、前月比95.1%)、国産品在庫が11.2千ト(同108.2%、同 104.8%)となった。 同機構によれば、国産品と輸入品を合わせた期末在庫は、12月が124.5千ト(前年比 104.8%)、1月が120.4千ト(同 96.1%)、2月が113.4千ト(同 93.0%)と予測している。											
枝肉相場	1.R3年1月速報値	○ 令和3年1月の東京市場枝肉卸売価格(速報値1/29時点)は、和牛去勢A5が2,688円(前年比100.3%)、和牛去勢A4が2,445円(同107.5%)、和牛去勢A3が2,282円(同 113.1%)、交雑牛B3が1,594円(同 99.3%)、乳牛去勢B2が1,012円(同103.6%)であった。											
	2.R3年2月予測	○ (独)農畜産業振興機構が1月27日に公表した2月の国内出荷予測頭数を品種別にみると、和牛が33.5千頭(前年比100.1%)、交雑牛が17.0千頭(同 97.23%)、乳用種が23.9千頭(同 93.6%)であり、全体では75.9千頭(同 97.4%)と見込んでいる。 ○ 1月の枝肉相場は、政府の補助事業の影響や輸出需要が堅調に推移するなかで、季節的な要因もあり弱含みの展開となった。 2月について、緊急事態宣言が延長となるなどにより外出を自粛する状況下で、①輸出量が増加傾向にあること、②政府の補助事業の影響、 ③引続き内食需要が堅調に推移すると見込まれるものの、枝肉相場は季節的な背景もあり、全体的には1月より弱含みの展開が予測される。 ただし、新型コロナウイルス感染の影響に伴う行政対応等による枝肉相場への影響には引続き注視が必要である。											
		◎ 枝肉相場予想:東京市場【税込】											
		・和牛去勢「A-5」: 2,872円 (105.6%) 2,688円 (100.3%) 2,600円 2,550円 ・和牛去勢「A-4」: 2,626円 (114.8%) 2,445円 (107.5%) 2,420円 2,400円 ・交雑去勢「B-3」: 1,675円 (100.9%) 1,594円 (99.3%) 1,530円 1,480円 ・乳牛去勢「B-2」: 927円 (97.2%) 1,012円 (103.6%) 950円 950円											
部分肉相場	1.R3年2月予測	◎ 首都圏仲間価格【税抜】											
		【和牛:4等級】											
		・和牛カタセット(スネなし): 4,250円 ・和牛ロースセット(ヒレなし): 6,700円 ・和牛モモセット(スネなし): 4,300円 ・和牛トモバラ: 2,150円											
		【ホルス:2等級】											